

1982年カナン牧場は、利用者の就労の場の確保と社会参加の場となることを願い、その事業の目的として、有限会社組織として歩み始めた。カナンの園が法人としての歩みを始めて10年後の出来事であり、会社組織として、福祉制度とは別組織として設立された。

カナンの園は「奥中山開拓団」として戦後入植された野澤義雄氏らが、この地が「乳と蜜の流れる土地」となることを夢見て開墾した土地を、後年に福祉のために役立ててほしいとの願いを持って、ご家族が提供してくださったことから始まった。野澤氏自身が、その土地を「カナン牧場」と名付けておられていたことが、牧場の名前の由来ともつながっている。

創業当初は子牛の肥育や養豚事業に挑戦していた。しかし、採算性や時代

の流れによって、閉鎖せざるを得なくなった。一方で、創業直後からパン製造や農産加工事業も行っていた。奥中山西岳の伏流水と無添加にこだわり、シンプルで飽きのこない味は、徐々に口



早朝のカナン牧場。

ミによって盛岡の教会や生協の共同購入等で次第に販路を広げ、事業の中心となっていった。

事業目的であった雇用の場としての役割は、当初、従業員（利用者）は入所施設「小さき群の里」に所属しながら、実習生というかたちで働いていた。次第に一人、また一人という形で、正式雇用となった。販路や事業の拡大の中で、有限会社組織から福祉工場へと事業体を変遷し、30名規模の雇用の場へと移り変わった。現在は、就労継続支援A型事業所として、伝統の製法と従業員32名の雇用を守り「カナンのパン屋」として認知されている。県内全域のスーパーや地域の産直、小売店等での販売と東北〜関東圏を中心に発送も行っている。

昨今、コロナ禍や物価高騰等、時代

の荒波に翻弄されることも多い。しかし、これまでの歩みの確かな証として、一般就労へと巣立った仲間たちも含め、60名ほどの雇用と社会参加の場としての役割を担ってきた。その願いを紡ぎ続けられていられるのは、カナン牧場のパンを心待ちにし、購入し、支え続けてくださっているお客さまがいてこそである。また、日々、夜明け前から働き続けている従業員と職員のひたむきな姿の上に成り立っていることにほかならない。

今、創業40周年という節目を経て、カナン牧場の新たな挑戦として、カナン牧場製品を全国で待っておられるお客さまに向けて発信できるよう準備を整えている。伝統と目的を見失わず、新たな取り組みを進めるべく、一丸とな

# TSK カナンの園

141

カナン牧場 所長  
向井由祈

No.141  
発行日/2023年11月15日  
編集/社会福祉法人カナンの園  
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町  
中山字大塚4番地7  
TEL 0195 (36) 1026  
FAX 0195 (36) 1027  
ホームページ  
http://www.canaan-jp.net/  
E-mail/honbu@canaan-jp.net

編集者 社会福祉法人カナンの園  
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七 ☎0195-361-026

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会（略称TSK）  
〒981-0907 宮城県仙台市青葉区高松一丁目四一〇 頒価百円

## お知らせ エアコン整備事業資金助成のお礼

このたび、赤い羽根共同募金会の令和5年度施設整備事業を受け、となんカナンの集会室、相談室、事務室の3室に合計5台のエアコン整備を行いました。今年の夏はとにかく猛暑で、エアコンなしで長時間過ごすことはできませんでした。

エアコンが整備されたことで、この暑さの中、体調不良の人も少なく乗り切ることができました。ここに赤い羽根共同募金会をはじめ、寄付をされた方々に改めて御礼申し上げます（赤い羽根共同募金会助成金748,000円、総事業費2,057,000円）。



相談室に入ったエアコン。

## Scope & Spot



ここにこと優しい笑顔が印象的な朴館昭憲さん。毎日ウィズで働いて、どんな仕事もバリバリこなして職員を助けてくれています。昨年待ちに待った、念願の工藤静香さんのコンサートに職員と一緒に行って来ました。応援グッズを手にウキウキです。前列のファンクラブの方に合わせながら、立ちっぱなしでのりのりで踊りました。知っている曲がたくさんあって、とても楽しめました。応援グッズは宝物にしています。コンサートが終わるとすぐに「また来ようね」と言っていました。

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。機関誌「カナンの園」に対するご意見、ご感想を、事務局までお寄せください。

## 社会福祉法人カナンの園

- 福祉型障害児入所施設 奥中山学園  
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 ゆいまある  
☎0195-35-2314 FAX 0195-35-3406
- 多機能型事業所 小さき群の里  
☎0195-35-3080 FAX 0195-35-2780
- 共同生活援助事業所 ののさわ  
(グループホーム1~6)  
☎0195-35-2232 FAX 0195-35-3405
- 生活介護事業所 ヒソブ工房  
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 共同生活援助事業所 HANA  
(盛岡地区グループホーム1~5)  
☎019-646-8581 FAX 019-646-8582
- 特定相談支援事業所 らぼーる  
☎019-656-6863 FAX 019-656-0553
- 生活介護事業所 シャローム  
☎0195-35-2883 FAX 0195-35-2884

- 就労継続支援B型事業所 ウィズ  
☎0195-36-1120 FAX 0195-36-1121
- 就労継続支援A型事業所 カナン牧場  
☎0195-35-2583 FAX 0195-35-3145
- 共同生活援助事業所 美空  
(グループホーム1~10)  
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 居宅介護事業所 れもん  
☎0195-35-3844 FAX 0195-35-3840
- 障害児相談・特定相談支援事業所 むつび  
☎0195-35-3665 FAX 0195-35-3840
- 多機能型事業所 となんカナン  
☎019-681-3004 FAX 019-637-2601
- カナン市場（カナンの園商品一括取扱所）  
☎019-639-3120 FAX 019-637-2601

## 学校法人カナン学園

- 三愛学舎（特別支援学校高等部・知的）  
☎0195-35-2231 FAX 0195-35-2781

本誌は再生紙を使用しています。

特集

# これからの カナンの園について 語り合おう

カナンの園は、先達による「夢」と「志」により創立され約50年がたちました。これまで創り上げてきたものを大切にしつつ、時代や社会のニーズに 대응すること、利用者の高齢化等の対応、人材確保と育成、多様な働き方など、以前とは違った課題、悩みを抱えながら職員は働いています。そこで、今回は働き始めて7、8年目の同世代が集い、自分のことやこれからのカナンの園について語り合う座談会を企画しました。

出席者

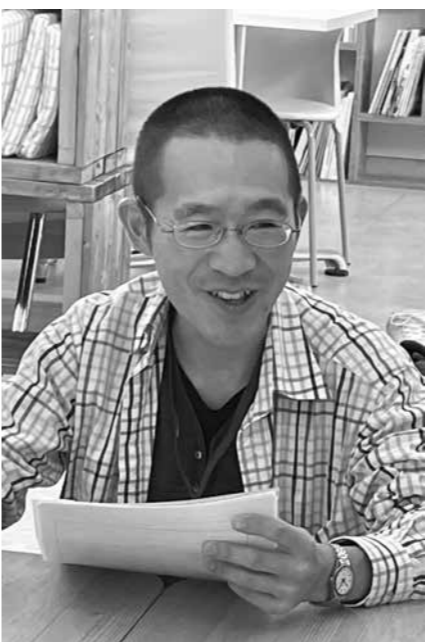
- 田之岡篤礼（奥中山学園）
- 成谷廉（ののさわ事業所）
- 澤村裕香（ヒソプ工房）
- 高橋葵（となんカナン）

司会

- 戸来正樹（三愛学舎）

場所

Cafeおーでんせ（となんカナン）にて



司会：戸来正樹さん（三愛学舎）。

## カナンの園との出会い 働くきっかけ

**司会** 今日はお集まりいただき、ありがとうございます。早速ですが、自己紹介と最近の楽しみなどをお聞かせください。  
**成谷** ののさわ事業所支援員として2年目です。その前は小さき群の里で6年間支援員をしていました。ご飯を食べることが楽しみで幸せです。

**田之岡** 昨年度まで、ののさわ事業所で6年間支援員、本年度から奥中山学園で支援員をしています。楽しみは、晴れた日にバイクで景色を見ながらツーリングすることです。

**高橋** 本年度から、となんカナンで支援員をしています。その前は、カナン牧場で4年間、ののさわ事業所で2年間支援員をしていました。楽しみは、今回の異

動で引越したので近所を散策し道を楽しめることです。

**澤村** ヒソプ工房で生活支援員2年目です。その前は、奥中山学園で4年間、となんカナンで2年間支援員をしていました。楽しみは、USJのホラーナイトの動画を見ることです。

**司会** ありがとうございます。皆さんの様子が分かり、親近感が湧きました。それでは、カナンの園で働くことになったきっかけを教えてください。

**澤村** 誰かの支えになりたいということが根本にあり、福祉にも興味がありました。カナンの園の方が就職説明のため大学に来た際に話を聞き、また、他の就職活動の際にもカナンの園を紹介され、カナンの園という名前がよく耳に入るので働いてみようかなと思いつきました。

**田之岡** 高校生の頃から人の役に立ちたいと思っていました。剣道をやっていた、消防士が警察官になることが目標でしたが、他にも役に立てることがないか考え、福祉を目指してみようと思えました。企業説明会でカナンの園を知り、また、親戚に福祉関係の仕事の人がいて「カナンの園がいいよ、勉強になるよ」と勧められ働こうと思えました。

**成谷** 障がいがある家族がいることもあり、福祉に興味を持ちました。北上市の施設でボランティアなどをしながら就職を考えているとき、企業説明会でカナンの園の話を聞き、生活の場、日中活動の場もあって、いろんな経験ができると思

将来につなげていくために、声掛けや支援方法を模索しています。それから、家庭の事情で週末や長期休みに自宅に帰ることができない方もいるので、学園での生活を工夫し、外出と一緒に活動する内容が充実したものになるように心掛けています。

**澤村** グループホームのワーカーとして働いています。これまで経験してきた所に比べると自立度は高い方々が多いですが、情緒面の安定を図ることが求められ日々葛藤しながら関わり方を模索しています。

## 互いの成長が 感じられる瞬間

**司会** 事業所によっていろいろな喜び、苦労があるのだと思います。次は、これまでこの仕事をしてきてよかったこと、やりがいを感じたことを話してください。

**澤村** 奥中山学園で働いているときに「ありがとう」「ごめんさい」などが言えない子がいて、繰り返し伝え、行動で示してきたけれども、なかなか積み上げられず、難しさを感じていました。そんなあるとき、こちらから促さなくてもその子から初めて「ありがとう」と言ってくれたことがあります。これまでの関わりは無駄ではなかったと思ったり、やりがいを感じました。

**田之岡** すごくいい話ですね。その方はそれ以降、どうなったのですか。

**澤村** 精神面、学習面でも大きくたくましく成長しました。環境って大事なのだと思います。

**田之岡** ののさわ事業所で最初に携わったグループホームの話です。業務を終えて帰ろうとした際「田之岡さん、ありがとう」と利用者の方から声を掛けられたことがあります。

その方は、普段あまり話し掛けてくることはなく、まして私に感謝の気持ちをサポートに話してくれたのが初めてだったので、とてもびっくりし、うれしかったのが忘れられません。また、現在の奥中山学園のことでは、入園時、困っていることを話せなかった子が、徐々に心を開き職員に悩みや困ったことを話せるようになったことです。子どもたちの成長が著しく、楽しく、やりがいを感じています。

**高橋** 作業で利用者さんと関わることが多いので、どうやったら作業ができるかを一緒に考え、できるように喜んでくれる表情を見ることがや、やり遂げられたという達成感を一緒に感じられた瞬間は、やりがいを感じます。3事業所を回っていく中でも感じることは、利用者さんとの関係性を築き、お互いに歩み寄り、相談してくれるようになったとき、うれしいと思う瞬間です。

**成谷** 1年目に小さき群の里で作業を担当したとき、個性豊かで自分を強く持っている方々との関わりの日々でした。1



田之岡篤礼さん（奥中山学園）。

**司会** ありがとうございます。それは、今の仕事内容や利用者との関わりについて教えてください。

## 日々の関わりの中での 気付きや学び

**成谷** 生活支援をしています。ののさわ事業所の方々は、高齢化による運動機能の低下もあり、日常の支援はもちろんですが、特に健康観察に気を付けるほか、環境配慮にも心掛けています。体調不良を訴えることができない方もいますので、どれだけ気付けるかが大事だと思っています。

**高橋** 受注課に所属しています。封入やポストイン、外部販売に携わっていま

す。まだ4月に異動したばかりなので、自分の仕事を覚えて、皆さんのことをもつと知ろうとしている段階です。

**田之岡** 子どもたちの生活を支え、見守るといふことです。

また、一人ひとり課題があるので、どう良い方向に導いていくかがこれから生きていく中で大切なことだと思うので、

ます。

**事業所**として継続していくには、若い人に入ってきてもらい技術を継承していくことや、若い方の意見が取り入れられるようになることが必要だと思います。職員は変わっていても、利用者はずっとやりがいを持ち、楽しく、続けられるような体制ができればと思います。

**司会** いろいろと夢のある話や実現させたい話を聞いてよかったです。さて、それぞれに多くの経験を重ねてきた皆さんですが、働き始めた頃の自分を思い出し、その頃の自分に声を掛けるとしたら、何と声を掛けますか。

**澤村** 背中をバンとたたいてやりたいです。気を張り過ぎていて、ものすごく緊張してガチガチでした。学園の子どもたちにも壁を作っていたので「もうちょっと力を抜いていいよ」と伝えたいです。

**高橋** 私は「人とのつながりを大事にして、利用者の方々にとって何がいいかを第一に考えて、初心を忘れずに頑張りなさい」と伝えたいです。

**成谷** ガチガチだったし、斜め下を見ていました。「顔を上げて視野を広げよう」「自信を持って」と伝えたいです。間違いもたくさんあったけど、そこでめげないで頑張っしてほしいと思います。

**田之岡** 「相談できる相手を作って」「自然体であって」「いろいろな経験をして」の三つです。一人でも相談できる相手を作ること、うまくコミュニケーションが取れず壁を作ってしまったので距離感も大

切だけど自然体でいること、ポジティブにいろんなことに挑戦することを自分に伝えたいです。

**司会** ありがとうございます。それぞれの思いがその頃の、そして今の自分たちを作っているのでしょうか。

こうやって皆さんがカナンの園で生き生きと働いている様子を多くの方々にお届けできる機会になり、うれしいです。本日はありがとうございます。

※次号は、今回の座談会を受けて、主任級の方々に話を聞きたいと思います。お楽しみに。



澤村裕香さん（ヒソプ工房）。



とんカナンにて収録。



成谷廉さん（ののさわ事業所）。

年間関わりましたが、なかなか難しいと感じていました。

2年目に主担当となり、約10人を担当しましたが、1日に1人、1時間だけ個別に作業から離れて時間を取るようにしてみました。気付いたらみんな心を開いてくれるようになりました。関係性の築き方を学び、小さき群の里で過ごした6年間は、1日1日にやりがいを感じていました。

## 地域に貢献しつつ 魅力を伝える

**司会** ありがとうございます。では、皆さんの仕事への思いなどが聞けたところで、今後、カナンの園でやってみたいことはありますか。

**田之岡** 奥中山学園の子どもたちの中には、あまり旅行に行った経験がない方もいますので、仙台市や東京都など新幹線が出掛け、新しい経験をする様子を見てみたいです。

**成谷** ののさわ事業所でも、以前は保護者と一緒の旅行がありました。最近はどうですか。すごく大変だと思いつくりますが、みんなで温泉に行くなど思いつくりになるイベントを行いたいです。

われわれの働き方についても話しますが、利用者の方々の高齢化により、夜間の支援体制が必要になってきています。それに合った働き方、宿直ではなく、夜勤として構築していく体制を整えてほしいです。

そうなる人材確保の話になると思いますが、管理職だけではなく、自分たちもいろんなアイデアを出して、外部にカナンの園の魅力を発信していきたいです。学生さんに現場の声を聴いてもらう場を設けることや、働きやすい仕組みを少しずつ作り上げていけば、よりよい人材が集まり、いい支援のかたちができると思います。

ボランティアとして街の清掃活動をする



高橋葵さん（とんカナン）。

るなど貢献しながらさまざまな方々に知ってもらい、魅力を伝える循環ができればいいと思います。

**澤村** カナン製品販売の際、カナンの園を知ってもらうことが多いのですが、もっと日常生活の中に自然にカナンの園が入り込んでいけるようになればいいと思います。アネックスカワトクで、カナンのパンをすごく褒めてもらうことが多く、うれしかったです。その声をもっと広げたいと思います。

**成谷** 私の実家が北上市なので、たまにたくさんカナンのパンを買って帰り、近所に配っていますが、好評で近くでも売ってほしいと要望があります。あと、移動販売車とかもいいですね。お年寄りの方々も買いやすいと思います。

**全員** それはいい。ぜひやってみたいですね。

**成谷** 三愛学舎はIDサッカー（\*）とかに力を入れているので、カナン杯みたいなのを開催し、自分たちの得意なところから発信するのでもいいと思います。県内でフットサル大会を開催し、景品にカナン製品を提供するのもいいですね。

（知的障がい者のサッカー。各地にチームがあり、それぞれの地方大会や全国大会がある）

また、SNSの活用もいいですね。TikTokをうまく活用し売り上げが伸びた事業所もあるようです。

**高橋** 若者の取り込みが必要だと思います。年配の方はカナン製品を買いに来ますが、若い方は知らない人も多いのでSNSを活用できればと思います。

**澤村** やりたいことという枠ではないのですが、あればいいなと思うのは、利用者の方が家族と一緒に住める場所です。保護者が高齢になり家族支援が必要なケースも出てきており、まるごと家族を支えるみたいな場所があればいいと思います。

**高橋** とんカナンは就労系の事業所なので、働くこと以外、運動や遊びに行く余暇の時間の充実もできればいいと思います。

# みんなのカナン

今春よりコロナの行動制限もなくなり、動き始めた各事業所の様子を紹介します。  
久しぶりの楽しい行事に、自然と笑みがこぼれます。

奥中山学園では長期休みに自宅に帰った子どもたちが1泊2日で学園に集

## みんなで夏を満喫

大サマーパーティー、4年ぶりの開催だった。コロナがあつてなかなかできなかったけど、みんなで集まってよかった。来年の5月の「さくら市」もできればよいなあ。コロナ次第だね。「オニヤンマ君」を入り口にぶら下げていたからスズメバチやアブが入って来なくてよかった。スイカ割りが楽しかった。目隠しして見えなかった。くじ引きで色んなものがもらえてよかった。焼き肉食べてよかった。（嫌いだったけど）ズッキーニ我慢して食べた。  
（絵とコメント：シャローム利用者 佐々木信悟さん）



## 4年ぶりの大サマーパーティー

7月30日に秋田県男鹿市に「男鹿ロックナマハゲフェスティバル」を見に行

## 念願の「男鹿ロック」



張り切って焼きそば作りをする小原颯太さん。

（奥中山学園支援員 與羽彩花）

生活支援センターIGH入居者 齊藤翔太さん

（本人談）

「男鹿ロック」は今年初めて行って、午前中は暑過ぎて車で休憩を取りながらフェスに参加しました。午後からは本格的に好きなアーティストのライブが見られて感動しました。モンパチとドラゴンアシユとテンフィートとポーンズを見て、エルレガーデンのポーカーの人を生で見ました。グッズも買えて、帰って来てお土産も渡せました。コロナ禍で就職活動して、1年半前に一戸製材に就職できて、今は仕事を頑張っています。フェスとかライブが好きなので、頑張ってお金をためて、もっと県外のフェスに行きたいです。

水遊びは、園庭にみんなで集まって行いました。思い切り水を掛けて、びしょびしょになりながら遊ぶ子、その様子を日焼けしないように木陰で見ている女の子たち等それぞれでしたが、みんなの全身から「楽しい！」があふれているように感じました。仲間と一緒に夏を満喫した1日、一人ひとり（私も！）の心に楽しかった思い出として残り、うれしい時間でした。

まり、みんなで活動する「利用日」があります。この数年間はコロナ禍で中止や縮小もありましたが、今年の夏はコロナ前のようにバーベキューや水遊び等を行い、盛りだくさんの1日でした。私はこかげ寮のみんなと過ごしましたが、子どもたちが張り切って焼き肉や焼きそばを作ってくれたり、普段の生活とは違う姿を見ることができました。



自慢の「男鹿ロック」で購入した大好きなバンドのタオルを手にする齊藤翔太さん。

きました。去年はコロナで行けなくて、今年はリベンジができました。7月29日の仕事終わりに秋田に向かって、夜は秋田市のホテルで1泊しました。秋田駅前の居酒屋でご飯を食べながら「男鹿ロック」のアーティストとか時間とか復習しました。

「男鹿ロック」は今年初めて行って、午前中は暑過ぎて車で休憩を取りながらフェスに参加しました。午後からは本格的に好きなアーティストのライブが見られて感動しました。モンパチとドラゴンアシユとテンフィートとポーンズを見て、エルレガーデンのポーカーの人を生で見ました。グッズも買えて、帰って来てお土産も渡せました。コロナ禍で就職活動して、1年半前に一戸製材に就職できて、今は仕事を頑張っています。フェスとかライブが好きなので、頑張ってお金をためて、もっと県外のフェスに行きたいです。

# お久しぶりね

ヒソプ工房主任 渡邊英紀

その言葉は突然発せられたものだった。私はビックリしたものの、その言葉と言うシチュエーションやタイミングだけ切り取れば、何ら申し分ない「ひどこと」なのだ。2021年4月。私はヒソプ工房内のグループホーム担当から本体の生活介護事業へ、Tさんの担当職員となるための配置換えがあった。長らくグループホームで従事させていただいていたこともあり、内外部さまざまな方と接する機会や多岐にわたる支援に携わってきたことで、この頃にはある程度の経験値から支援に対する自信や耐性は身に付いているという自負は少なからずあった。確かにあったのだが、Tさんの担当になったときには、正直不安を感じた。

私今や10年以上の経験を積んだ中堅職員。「苦手意識を持ったままではいけない！ 何より、Tさんのことを全然知らないじゃないか」と、過去のケース記録や成育歴など読みあさったが不安は増していくばかりだった。それでも担当者としてTさんとの日々の関わりは続いていく中で、徐々にTさんへの関わることへの不安は薄れていった。その理由の一つ目は先輩職員によって、さまざまな配慮によるTさんへ

の環境面等の整えが確立されていたこと。二つ目はTさんの表情やしぐさに私が魅了されていたことだ。一緒に過ごす時間が多くなっていく中で、自然と私からのTさんへの一方的な話し掛けが増えていった。それに応えるかのように少しずつTさんからも、それまで聞いたことがないような言葉が多くなってきた。「三ツ矢サイダー」「キリンレモン」など、飲みたいわけでもなさそうで、なぜ出たのか分からない言葉だったり「飴」（焼肉屋さんへ行った後にももらえるモノ）、「お正月」（家でゆっくり休める行事）といった私でも意味を想像できる言葉などさまざまなのだが、Tさんから発せられる新しい言葉に楽しさを感じるようになっていった。

に新型コロナウィルスを理由に1週間あまり職場から離れることを余儀なくされた。大事には至らなかったが、職務復帰した当日のTさんは、私の顔を見に近くには来るものの、心なしか口数が少なかった。私はTさんから「1週間も顔を見せずにひどいやつだ！」と愛想を尽かされてしまったものかと落胆していた。それでもこれまで通りTさんの日課であるドライブへと出掛けた。助手席にいるTさんは相変わらず物静かで、移り変わる景色を見ていたのだが、その言葉は突然発せられた。「お久しぶりね」と。偶然でもいい。その言葉はTさんさらには好きになる理由として、これ以上ない言葉だと思えた。

